

身體部位詞「口」之連接詞的考察 -與形容詞或形容動詞共起的情況-

李毓清 *

摘要

本論文以2個語料庫（NLB、中納言）中「形容詞+口」「形容動詞+口」的連接詞為研究對象，調查與「口」共起的形容詞、形容動詞的分布情形外，有關語義用法也一併探討。

以『分類語彙表』為基準調查結果：與「口」共起形容詞的數量為「抽象的關係」>「人類活動—精神及行為」>「自然物及自然現象」的順序；而形容動詞的數量則是「人類活動—精神及行為」>「抽象的關係」>「自然物及自然現象」的順序（部門別）。

另外，形容詞集中在〈樣子〉〈量〉〈心〉〈自然〉4個中項目，〈量〉的「重い口(omoikuchi)」(話少)、〈自然〉的「赤い口(akaikuchi)」(紅口)的連接詞有相當高的使用頻率。2個語料庫在形容動詞中，〈樣相〉〈量〉〈行為〉〈待遇〉4個中項目有重疊使用。〈量〉的「余計な口」(多嘴)、「巨大な口」(大嘴)、〈行為〉的「乱暴な口」(粗暴的說法)之連接詞則大量被使用。

連接詞的語義用法部分：形容詞、形容動詞都集中在〈口的基本語義〉及〈說法〉2用法。另外形容詞還有〈人(物)出入的地方〉之用法。而形容動詞的連接詞有6成以上皆為〈說法〉之用法，〈口的基本語義〉則次之；〈種類·興趣〉〈人·人類〉的用法則用例不多。

關鍵字：口、形容詞、形容動詞、連接詞、語料庫

1 實踐大學語言中心助理教授



A Survey Research on Collocations of Body Part Concerning KUCHI: Examples of Adjectives and Na-adjectives

Yu-Ching Li *

Abstract

The purpose of the research is to explore the collocations of body part concerning Adjectives and Na-adjectives with KUCHI (口) by sampling from 2 corpuses (NLB and BCCWJ). The research questions are as follows: 1. What is the distribution of Adjectives and Na-adjectives that are easily collocated with KUCHI in bumon and cyuukoumoku? 2. What is the semanteme of Adjectives and Na-adjectives that are collocated with KUCHI?

Based on Word List by Semantic Principles, in bumonn, the numbers of Adjectives with KUCHI are ranked as: 3.1 (abstract relationship) > 3.3 (human activity – spirit and behavior) > 3.5 (natural things and phenomenon). The numbers of Na-adjectives with KUCHI are ranked as: 3.3 (human activity – spirit and behavior) > 3.1 (abstract relationship) > 3.5 (natural things and phenomenon). In cyuukoumoku, the frequencies of Adjectives are concentrated on yousou (様相), ryou (量), kokoro (心), sizenn (自然) and the Na-adjectives are concentrated on yousou (様相), ryou (量), kouii (行為), and taigu (待遇). The findings in 2 corpuses are consistency.

The collocations for Adjectives with KUCHI includes basic semanteme, way of speaking, where people (things) go in and out. The frequencies of collocations for Na-adjectives with KUCHI are ranked as: way of speaking (above 60%) > basic semanteme. Moreover, 2 parts of speech and collocations of KUCHI are concentrated on basic semanteme and way of speaking.

Keywords: KUCHI, Adjectives, Na-adjectives, collocation, corpus

* Assistant Professor, Language Center, SHIH CHIEN UNIVERSITY, Taipei



身体部位詞「口」のコロケーションの考察 —形容詞あるいは形容動詞と共起した場合—

李毓清 *

要旨

本論は2つのコーパスにおける「形容詞+口」「形容動詞+な+口」のコロケーションを研究対象とし、口と共起する形容詞、形容動詞がどのように分布するかを調査するとともに、それらの意味用法について明らかにした。

「口」と共起する形容詞の数は、抽象的關係>人間活動—精神及び行為>自然物及び自然現象の順で多い一方、形容動詞は、人間活動—精神及び行為>抽象的關係>自然物及び自然現象の順で多かった。

また、形容詞は<様相><量><心><自然>の4つに焦点が当てられており、<量>の「重い口」、<自然>の「赤い口」のコロケーションがかなり高い頻度で見られた。形容動詞の場合は、<様相><量><行為><待遇>の4項目が2つのコーパスにおいて重なり、<量>の「余計な口」「巨大な口」、<行為>の「乱暴な口」のコロケーションが多く使用されていた。

形容詞、形容動詞ともに、コロケーションの意味用法は、<口>の基本義及び<話し方>の2つの用法に集中していた。形容詞のコロケーションでは<口>の基本義のほかに、<話し方><モノの出入りするところ>の使い方が見られ、形容動詞のコロケーションの6割以上は<話し方>の用法で、<口>の基本義の用法がそれに続いた。<種類・趣味><人・人間>の用法の用例が少ない。

キーワード: 口、形容詞、形容動詞、コロケーション、コーパス

* 実践大学言語センター 助理教授



1、はじめに

「口」の場合は<行為>を表す際にその典型機能によって<摂食行為>と<言語行為>の2つに特定されている。(有菌2005) 日常会話で、「うまい口」「余計な口」が使用されており、文法構造から見ると前者は「形容詞+口」で、後者は「形容動詞+口」の形式となっている。意味用法に関しては、前者は「巧みな話し方」で、後者は「不必要な発言」であり、2者はともに<言語行為>の機能に属する。

本論は2コーパス(NLB、中納言)における「形容詞+口」「形容動詞+口」のコロケーション¹を研究対象として、それらの意味における分類と意味用法を考察する。

2つのコーパスにおける「形容詞+口」「形容動詞+口」のコロケーションを抽出し、『分類語彙表』に照らして、「口」と結びつきやすい形容詞、形容動詞の意味分類が部門別、中項目別においてどのように分布されるかを調査する。さらに、2コーパスの2品詞に重なり、多用されている語があるか、「形容詞+口」「形容動詞+口」のコロケーションにはそれぞれ何種の意味用法があるか、2品詞の使用状況には類似点と相違点があるかどうかを究明したい。

従来「口」に関する研究は、「慣用句」か「慣用表現」に焦点が当てられてきているが、本論の研究では、コロケーションにおける身体部位詞「口」に注目して、日本語学習者の「口」への認識を高めることを目的とする。

2. 先行研究

身体部位詞「口」に関する研究は、二言語の慣用句対照研究(ファルザネ・モラディ2014、林八竜2002、)、両国語の多義構造の比較対照(三好準之助2008)、「口」の慣用表現(田中2002)、慣用表現の意味分類(有菌2005)などがある。

¹ 金田一(2006)はコロケーションを「2つ以上の言葉が結びついてできたことば」と定義している。本論は金田一のこの定義に従う。



ファルザネ・モラディ (2014) は、日本語とペルシア語における「口」の慣用句を対照比較した。調査の結果、表1に示すとおり、二言語において、共通の意味拡張が2つ、日本語の特有の意味拡張が3つ、ペルシア語の特有の意味拡張が1つ見られたことがわかった。

表1 日本語とペルシア語の「口」の慣用表現の対照

項目	内容
二言語に共通の意味拡張	1. 「言語行為」と「摂食行為」 2. 「通り抜けることができる空間・物を出し入れする所」、「食器や物の出し入れをする所」。
日本語特有の意味拡張	1. 物事の初め。最初：「序の口」 2. 種類の一つ：飲める口 3. 入っておさまる所：就職口
ペルシア語特有の意味拡張	「口」から「気鳴楽器」「歌」「歌声の助数詞」

(ファルザネ・モラディ (2014) をもとに作成)

林 (2002) は「口」の果たす主な機能は「言う」と「食べる」ことに要約されると述べている。そして、「概念とのかかわり」と「感情とのかかわりに関するもの」の2種類から、日・韓両言語における「口」の身体慣用句を究明した。調査の結果、2種類で両国語に共通する項目は、前者が12、後者が3があった。「概念とのかかわり」の部分は両言語に共通する項目はかなり多様な概念と結びついている。

表2 日・韓両国語における「口」の身体語彙慣用句の調査

	概念とのかかわり	感情とのかかわりに関するもの
1	談合 (口を合わせる、口裏を合わせる)	嬉しさ・満足感
2	軽薄・軽率 (口が軽い、口が悪いなど)	不機嫌
3	多弁 (口が多い、口数が多い)	啞然
4	慎重 (口が重い、口が固いなど)	
5	膾炙 (口にのぼるなど)	
6	介入 (口を入れる、口を挟むなど)	
7	箝口・緘黙 (口をつぐむ、口を閉ざすなど)	



	概念とのかかわり	感情とのかかわりに関するもの
8	漏洩（口が滑る、口が割るなど）	
9	一致（口を揃える）	
10	口論（口角泡を飛ばす）	
11	強調（口をつくす、口をきわめる）	
12	影響（口の息を入れるなど）	

（林（2002）をもとに作成）

三好（2008）は多義構造の面から日本語とスペイン語における「口」の基本義と拡張義を調査した。そして両言語の「口」を「定義、形状、位置、機能、様態、包括部位、被包括部位」の7つに分けて論じた。

表3 日本語とスペイン語における「口」の基本義と拡張義

項目	日本語	スペイン語	
定義	両言語はほぼ同じ内容が含まれているか、同じ意味拡張をしている。		
形状			
位置	✓（「物の端、物事の初め」と「就職・縁組の落ち着く先」の2種類の語義が派生している。）	×（スペイン語ではそれが見当たらない）	
機能	飲食物の摂取	二言語ともに<飲食物の摂取>の意義特徴から「扶養する人、人数」へ意味拡張している。	
	扶養する人、人数	✓	✓（扶養する相手に「動物」が含まれている。）
	味覚	✓	✓（ワインに限定されている。）
	発話	✓（意味拡張がある。）	×（意味拡張がない。）
様態	✓（「摂取の一口分」の語義が拡張し、さらに隠喩で2種類の語義が派生している。）	×（拡張義から推測する限りでは、とくに認知されているような意義特徴は見当たらない。派生義が生れない。）	

（三好（2008）をもとに作成）



有菌（2005）は身体部位「口」を含む慣用表現の意味分類を考察した。そして、「口」は、行為を行う際の道具（つまり身体部位）によって〈行為〉を表し、更にはある行為を行う際に要求される〈人〉〈能力〉〈方法〉などへと意味拡張していると述べている。なお、〈行為〉を表す際は、その典型機能によって〈摂食行為〉と〈言語行為〉の2つに特定される。また、〈摂食行為〉は〈人（口を減らす）〉〈味覚（口が奢っている）〉に、〈言語行為〉は〈話す能力（口が上手い）〉〈話し方（口が悪い）〉〈話（の内容）（口を合わせる）〉に下位分類されている。

上述したものは、二言語における「口」の慣用句の比較や、「口」の慣用表現を研究しているが、本論は2コーパスにおける「形容詞＋口」「形容動詞＋口」のコロケーションを考察し、それらの意味分類、意味用法を分析して究明する。

3、コーパスにおける「形容詞/形容動詞＋口」のコロケーション

本論は「NINJAL—LWP for BCCWJ」（以下はNLB）と「中納言」を利用して、2コーパスにおける「形容詞＋口」「形容動詞＋口」のコロケーションを研究対象として究明する。2コーパスにおいて、口と合わさった形容詞、形容動詞の意味表現はどのように分布するか、『分類語彙表（増補改訂版2004）』（以下『分類語彙表』）に照らして、両品詞の意味分類（部分別、中項目別）を究明するとともに、2コーパスにおけるずれと重なりも比較したい。

3.1 NLBにおける「形容詞/形容動詞＋口」のコロケーション

調査した結果、NLBにおいて「形容詞基本形＋口」（以下は形容詞＋口）、「形容動詞語幹＋な＋口」（以下は形容動詞＋口）のコロケーションに使われている形容詞、形容動詞がおのおの44、35で、形容詞は形容動詞より多いことがわかった。では、どのような形容詞、形容動詞が「口」と合わさりやすいのか。また、それらの意味分類はどのように分布しているのか。以上を『分類語彙表』



をもとにして、2品詞の部門別、中項目別の分布状況、そして代表的な語彙などを明らかにしたい。

3.1.1 NLBにおける部門別使用状況

NLBにおける「形容詞＋口」「形容動詞＋口」のコロケーションの詳細は表4が示すとおりで、2者共に「3.1抽象的關係」「3.3人間活動—精神及び行為」「3.5自然物及び自然現象」の3部門に分布している。

表4 NLBにおける部門別使用状況

項目	3.1抽象的關係	3.3人間活動—精神及び行為	3.5自然物及び自然現象	計
形容詞＋口	19 (1位) 重い、でかい、長いなど	16 (2位) ひどい、恐ろしい、可愛い、馴れ馴れしいなど	9 (3位) 赤い、臭い、黒いなど	44
形容動詞＋口	13 (2位) 余計、巨大、不自然など	19 (1位) ぞんざい、乱暴、辛辣、丁寧など	3 (3位) 真っ赤、セクシー、大柄など	35

表4によると、3部門で2品詞が使用されている数は、形容詞では19(重い、でかい、長い、汚いなど)、16(ひどい、恐ろしい、可愛い、馴れ馴れしいなど)、9(赤い、臭い、黒いなど)、形容動詞では13(余計、巨大、不自然、変など)、19(ぞんざい、乱暴、辛辣、丁寧など)、3(真っ赤、セクシー、大柄)である。形容詞の数は「3.1抽象的關係」>「3.3人間活動—精神及び行為」>「3.5自然物及び自然現象」の順位で、それに対して、形容動詞は「3.3人間活動—精神及び行為」>「3.1抽象的關係」>「3.5自然物及び自然現象」の順位である。形容詞は「3.1抽象的關係」が多く使用されている一方、形容動詞は「3.3人間活動—精神及び行為」が最多である。そして、「3.5自然物及び自然現象」の部門においては、2品詞とも使用数があまり多くなく、一致している。

3.1.2 NLBにおける中項目別使用状況

3.1.1で述べた3部門の下位分類を表5にまとめる。



表5 NLBにおける中項目別使用状況

部門	中項目	形容詞		形容動詞	
		使用数	頻度	使用数	頻度
3.1 抽象的 関係	真偽	1 (正しい)	<u>1</u>	0	<u>0</u>
	類	0	<u>0</u>	3 (上等、同等など)	<u>3</u>
	様相	4 (美しい、汚いなど)	<u>7</u>	6 (不自然、変など)	<u>9</u>
	力	1 (すごい)	<u>2</u>	0	<u>0</u>
	形	3 (細長い、四角いなど)	<u>4</u>	0	<u>0</u>
	量	10 (重い33、でかい8など)	<u>54</u>	4 (余計10、巨大7など)	<u>19</u>
3.3 人間活 動—精 神及び 行為	心	7 (可愛い、恐ろしいなど)	<u>11</u>	4 (嫌い、難渋など)	<u>4</u>
	言語	1 (悪い)	<u>2</u>	1 (辛辣)	<u>1</u>
	生活	0	<u>0</u>	1 (不吉)	<u>1</u>
	行為	5 (うまい、小賢しいなど)	<u>5</u>	8 (ぞんざい6、乱暴5など)	<u>18</u>
	交わり	2 (馴れ馴れしいなど)	<u>5</u>	0	<u>0</u>
	待遇	1 (ひどい)	<u>4</u>	5 (丁寧、失礼など)	<u>9</u>
3.5 自然物 及び自 然現象	自然	7 (赤い8、黒いなど)	<u>16</u>	1 (真っ赤7)	<u>7</u>
	物質	1 (熱い)	<u>1</u>	0	<u>0</u>
	生命	1 (生々しい)	<u>1</u>	0	0
	身体	0	<u>0</u>	2 (セクシー、大柄)	<u>2</u>

表5によると「3.1抽象的關係」の中項目は、形容詞は5つ<真偽、様相、力、形と量>²、形容動詞は3つ<類、様相、量>ある。2品詞では<様相><量>の2中項目が重なり、共起頻度は、2品詞ともに<様相><量>の2つに集中することがわかった。<量>の中項目において、「重い(33)」「でかい(8)」の頻度ともに5以上に達する。殊に「重い口」は他の形容詞と比べ数倍の使用状況となっている。形容動詞の頻度は「余計」「巨大」がそれぞれ10と7で、2語だけで85%を占めていて、この2語のコロケーションがよく使われていることがわか

² < >は中項目を、「」は具体的な形容詞、形容動詞を表す。



った。〈様相〉については、形容詞の「きつい(2)」「汚い(2)」「美しい(2)」、形容動詞の「不自然(3)」「変(2)」が使用されているが、共起頻度は〈量〉ほど多くない。

「3.3人間活動—精神及び行為」において、形容詞も形容動詞も5つの中項目に分布していて、〈心、言語、行為、交わり、待遇〉は形容詞に、〈心、言語、生活、行為、待遇〉は形容動詞に属する。2品詞で〈心、言語、行為、待遇〉の4つの中項目が重なり、形容詞の〈心、行為、交わり〉、形容動詞の〈行為、待遇〉はともに使用頻度が5以上ある。なお、形容詞の〈心〉の「可愛い(3)」「恐ろしい(3)」、〈交わり〉の「なれなれしい(3)」、形容動詞の〈行為〉の「ぞんざい(6)」「乱暴(5)」がほかの語より高い頻度を表す。

「3.5自然物及び自然現象」の部門には、形容詞は〈自然、物質、生命〉の3つ、形容動詞は〈自然、身体〉の2つの中項目がある。形容詞は「赤い(8)」のほかに、「黒い(2)、黄色い(1)などの色彩語や「臭い(2)」の嗅覚形容詞も見られるが、「赤い」の使用頻度がもっとも高く、形容動詞は「真っ赤(7)」1語しか使われていない。色彩語に関する「赤い口」「真っ赤な口」のコロケーションが〈自然〉の中項目で多用されていることがわかった。

3.2 中納言における「形容詞/形容動詞+口」のコロケーション

中納言において「口」のコロケーションで使用されている形容詞、形容動詞の数はおのおの34と46で、前述のNLBにおける調査結果と異なり、形容動詞の使用数は形容詞より多い。これらの形容詞、形容動詞が『分類語彙表』をもとにした部門、中項目にどのように分布しているかを引き続き究明したい。

3.2.1 中納言における部門別使用状況

中納言において「口」のコロケーションで使用されている形容動詞と形容動詞はそれぞれ34、46で、NLBと同じように2品詞共に「3.1抽象的關係」「3.3人間活動—精神及び行為」「3.5自然物及び自然現象」の3部門に分布している。



表6 中納言における「形容詞+口」「形容動詞+口」の部門別使用状況

項目	3.1抽象的關係	3.3人間活動—精神及び行為	3.5自然物及び自然現象	計
形容詞+口	14 (1位) 重い、いい、細い、丸いなど	12 (2位) 恐ろしい、馴れ馴れしい、可愛らしいなど	8 (3位) 赤い、臭い、暗いなど	34
形容動詞+口	16 (2位) 余計、巨大、上等など	25 (1位) 乱暴、生意気、丁寧など	5 (3位) 真っ赤、セクシー、大柄など	46

表6によると3部門で形容詞の使用数は14（重い、いい、細い、丸いなど）、12（恐ろしい、馴れ馴れしい、可愛らしいなど）、8（赤い、臭い、暗いなど）で、形容動詞は16（余計、巨大、上等など）、25（乱暴、生意気、丁寧など）、5（真っ赤、セクシー、大柄など）である。使用数の多さの順位は、形容詞は「3.1抽象的關係」>「3.3人間活動—精神及び行為」>「3.5自然物及び自然現象」の順位で、形容動詞は「3.3人間活動—精神及び行為」>「3.1抽象的關係」>「3.5自然物及び自然現象」である。

形容詞は「3.1抽象的關係」が多く使われているのに対し、形容動詞は「3.3人間活動—精神及び行為」が多用されている。そして、「3.5自然物及び自然現象」について、2品詞は「3.1抽象的關係」「3.3人間活動—精神及び行為」ほどおおくない。この調査結果は、前述3.1.1のNLBと同じで、部門別における形容詞、形容動詞の分布が2つのコーパスで一致している。

3.2.2 中納言における中項目別使用状況

『分類語彙表』の中項目における2品詞の使用数の状況を表7にまとめる。

表7を見ると「3.1抽象的關係」において、形容詞は<様相、力、形、量>の4つ、形容動詞は<真偽、類、様相、量>の4つの中項目が使用されていることがわかる。2者の共起頻度も上述のNLBと同じように、<様相><量>の2つを中心にして用いられる。<様相>には、形容詞は「いい(3)、美しい(1)、汚い(1)、醜い(1)」が、形容動詞は「不自然、立派、変、派手など」が使われている。NLBと同じ<量>の共起頻度が<様相>よりずっと多い。<量>に関する形容詞は「重い、細い、長い、薄い、広いなど」の7つで、頻度数が44であるが、



「重い」1語だけで頻度が36にも達し、他の6語ずっとより多い。NLBと同じように、「重い口」のコロケーションが「中納言」においても多用されている。＜量＞に関する形容動詞は「余計（11）、巨大（8）、些細（1）」の3つであり、「余計」「巨大」の2語に集中している。この調査結果もNLBと同じように、「余計な口」「巨大な口」が他の形容動詞より多く用いられていて、代表的な語であるといえる。

表7 中納言における「形容詞/形容動詞+口」の使用状況（中項目別）

部門	中項目	形容詞		形容動詞	
		使用数	頻度	使用数	頻度
3.1 抽象的 関係	真偽	0	<u>0</u>	1（自然）	<u>1</u>
	類	0	<u>0</u>	2（上等、同等）	<u>2</u>
	様相	4（いい、美しいなど）	<u>6</u>	10（不自然、変など）	<u>10</u>
	力	1（すごい）	<u>1</u>	0	<u>0</u>
	形	2（四角い、丸い）	<u>3</u>	0	<u>0</u>
	量	7（重い36、細い3など）	<u>44</u>	3（余計11、巨大8、些細1）	<u>20</u>
3.3 人間活動 —精神 及び 行為	心	7（恐ろしい、可愛らしいなど）	<u>12</u>	8（気軽、難渋など）	<u>9</u>
	言語	0	<u>0</u>	2（辛辣、高飛車）	<u>2</u>
	行為	4（うまい、小賢しいなど）	<u>4</u>	8（乱暴6、生意気6など）	<u>20</u>
	交わり	1（馴れ馴れしい）	<u>3</u>	0	<u>0</u>
	待遇	0	<u>0</u>	7（丁寧、失礼など）	<u>12</u>
3.5 自然物 及び 自然現象	自然	5（赤い7、臭い3など）	<u>14</u>	2（真っ赤3、まろやか）	<u>4</u>
	物質	1（熱い）	<u>1</u>	0	<u>0</u>
	生物	1（男っぽい）	<u>1</u>	0	<u>0</u>
	生命	1（生々しい）	<u>1</u>	0	<u>0</u>
	身体	0	<u>0</u>	3（セクシー、大柄、肉感的）	<u>3</u>

「3.3人間活動—精神及び行為」では、形容詞は3つ（心、行為、交わり）、



形容動詞は4つ（心、言語、行為、待遇）の中項目が用いられている。形容詞の頻度は主に<心>を中心にしていて、「恐ろしい」（3）、「可愛いらしい」（3）、「親しい」（2）などが見られる。それに対して形容動詞の頻度は<行為、待遇、心>に分布し、<行為>の「乱暴」（6）、「生意気」（6）、<待遇>の「丁寧（3）」が高い頻度で使用されている。

「3.5自然物及び自然現象」で形容詞は4つ（自然、物質、生物、生命）、形容動詞は2つ（自然、体）の中項目で使用されている。形容詞の頻度数はほとんど<自然>の項目に集中していて、「赤い」（7）と「臭い」（3）2語だけで、半分以上（10/17）の使用率を占めている。なお、色彩形容詞の「黒い」「黄色い」も見られるが共起頻度はそれほど高くない。形容動詞の頻度は平均的に<自然><身体>に分散しているが、<自然>の「真っ赤（3）」の共起頻度が他の語より高い。この調査結果から、「赤い口」「真っ赤な口」のコロケーションがNLBでも「中納言」でもよく使用されていることが分かった。

3.3 NLBと「中納言」における「形容詞/形容動詞+口」のコロケーションの比較

3.1と3.2でNLBと「中納言」の2コーパスにおける口のコロケーションにおける形容詞、形容動詞を『分類語彙表』をもとにして調査した。

2つのコーパスの間に、2品詞の使用数、『分類語彙表』での部門別および中項目の使用状況、高頻度の用語などには類似点、相違点があるのだろうか。また、2コーパスで重なる語はどのように分布しているのだろうか。

(1) 形容詞、形容動詞の使用数

2コーパスにおいて口と合わさりやすい形容詞、形容動詞の使用数は、NLBでは、形容詞（44）>形容動詞（35）で、「中納言」では形容動詞（46）>形容詞（34）であり、2コーパスにおいて2品詞の使用状況には差異がある。2品詞を合わせた数はNLBは79で、「中納言」は80である。

(2) 部門別

3.1の表4（NLB）、3.2の表6（中納言）から見ると、部門別に関しては、2つのコーパスにおける形容詞はともに「3.1抽象的關係」>「3.3人間活動—精神及び行為」>「3.5自然物及び自然現象」の順位である一方で、形容動詞は「3.3人



間活動—精神及び行為」>「3.1抽象的關係」>「3.5自然物及び自然現象」の順位である。言い換えれば、部門別から見ると口と合わさる形容詞、形容動詞の使用数の順位はNLBと「中納言」で類似性がある。

表8 NLBと「中納言」における「形容詞/形容動詞+口」のコロケーションの部門別比較

	NLB	中納言
形容詞	3.1抽象的關係>3.3人間活動—精神及び行為>3.5自然物及び自然現象	
形容動詞	3.3人間活動—精神及び行為>3.1抽象的關係>3.5自然物及び自然現象	

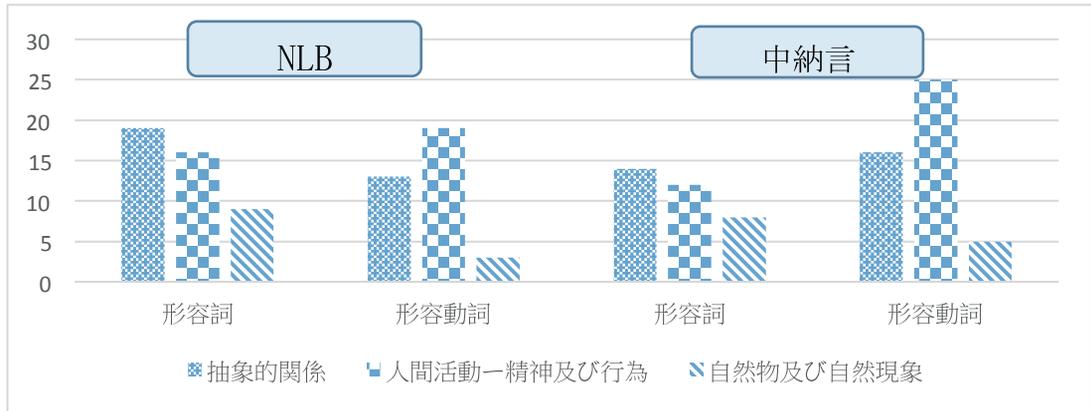


図1 NLBと「中納言」における「形容詞/形容動詞+口」のコロケーションの部門別比較

(3) 中項目別

頻度数5以上を基準として、NLBと「中納言」の中項目別使用状況を分析する。

表9が示すように、形容詞については、2コーパスには、<様相><量><心><自然>の4つの中項目が共に5以上の頻度である。とりわけ、<量>の「重い口」(33(NLB、表5)、36(「中納言」、表7))、<自然>の「赤い口」(8(NLB、表5)、7(「中納言」、表7))のコロケーションは、それぞれの中項目で高い共起頻度で使用されていて、2つのコーパスに類似点があることがわかる。



形容動詞を分析すれば、NLBには5つ（＜様相＞＜量＞＜行為＞＜待遇＞＜自然＞）、「中納言」には5つ（＜様相＞＜量＞＜心＞＜行為＞＜待遇＞）の中項目が見られ、2つのコーパスで4つ（＜様相＞＜量＞＜行為＞＜待遇＞）の中項目が重なる。特に＜量＞の「余計な口（10（NLB、表5）、11（中納言表7）」、「巨大な口（8（NLB、表5）、11（中納言、表7）」、＜行為＞の「乱暴な口（5（NLB、表5）、6（中納言、表7）」のコロケーションが2つのコーパスでともに多用されている。

表9 NLBと「中納言」における形容詞/形容動詞と口のコロケーションの中項目別比較

部門	NLB（頻度5以上の中項目）		中納言（頻度5以上の中項目）	
3.1抽象的關係	A	様相（7）、量（54）	A	様相（6）、量（44）
	AV	様相（9）、量（19）	AV	様相（10）、量（20）
3.3人間活動— 精神及び行為	A	心（11）、行為（5）、 交わり（5）	A	心（12）
	AV	行為（18）、待遇（9）	AV	心（9）、行為（20）、 待遇（12）
3.5自然物及び 自然現象	A	自然（16）	A	自然（14）
	AV	自然（7）	AV	

(4) 重なる語

「形容詞＋口」「形容動詞＋口」には、2つのコーパスで重なる語がいくつもある。32語ある形容詞、29語ある形容動詞の詳細は、表10のとおりである。

NLBで使われている形容詞は44語あり、「中納言」には34語ある。そして、2つのコーパスで重なる語は32もある。この32語はNLBでは68.09%を、「中納言」では94.12%を占めていて、「中納言」の形容詞はほとんど NLBと重なる。

部門別における32語の分布は、「3.1抽象的關係」は13語で、「3.3人間活動—精神及び行為」は12語で、「3.5自然物及び自然現象」は7語である。なお、「3.1抽象的關係」の「重い口」、「3.3人間活動—精神及び行為」の「恐ろしい



口」「馴れ馴れしい口」、「3.5自然物及び自然現象」の「赤い口」のコロケーションの共起頻度が2つのコーパスで類似している。なお、2つのコーパスにおいて、「重い口」「赤い口」が共起頻度が高い語である。

表10 NLBと「中納言」における「形容詞/形容動詞+口」のコロケーションで重なる語

部門	中項目	形容詞 (32語)		形容動詞 (29語)	
3.1 抽象的関係	類	13語		11語	上等、同等
	様相		美しい、汚い、醜い		立派、変、特別、駄目、不自然、派手、輕易
	形		四角い、丸い		
	力	1位	すごい	2位	
	量		長い (5、1)、薄い、広い、細い、でかい、狭い、重い (2 33、36)		巨大 (7、8)、余計 (10、11)
3.3 人間活動 —精神及び行為	言語	12語		15語	辛辣
	心		だるい、恐ろしい (3、3)、可愛らしい (1、3)、かわいい (×3、1)、白々しい		難渋、嫌い、ぶっきらぼう
	待遇	2位	ひどい (×4、1)、	1位	丁寧、失礼、無礼、横柄、傲慢
	交わり		親しい		
	行為		小賢しい、うまい、荒っぽい、さしてがましい、馴れ馴れしい (3、3)		急性、伝法、乱暴 (5、6)、ぞんざい (×6、3)、不埒、癡猛
3.5 自然物及び自然現象	自然	7語	暗い、黒い、赤い (8、7)、黄色い、臭い、	3語	真っ赤 (×7、3)
	物質		熱い		
	生命	3位	生々しい	3位	
	身体				セクシー、大柄

³ (33、36) 前の数字はNLB、後の数字は中納言を表す。は2コーパスの頻度は類似で、はNLBのほうが、は中納言のほうが多い頻度を表す。



形容動詞については、NLBは35語、「中納言」は46語で、2つのコーパスで重なる語は29語である。この29語はNLBの78.38%を、「中納言」の60.42%を占めていて、二者の間に60%以上重なりが見られる。29語の内訳は「3.3 人間活動—精神及び行為」が15語（1位）で、「3.1抽象的關係」は11語（2位）、「3.5自然物及び自然現象」は3語（3位）となっており、3.1.1と3.2.1で記述した全体の順序の調査結果と同じである。そして、2つのコーパスでは、「3.1抽象的關係」の「巨大な口」「余計な口」、「3.3 人間活動—精神及び行為」の「乱暴な口」のコロケーションの使用頻度が類似している。

4 コーパスにおける「形容詞/形容動詞＋口」のコロケーションの意味用法

3.1～3.4では、2つのコーパスで見られた口と合わさるコロケーションにおける形容詞および形容動詞の使用数、意味分類（部門別、中項目別）、重なり語を比較し、分析した。次に、「形容詞/形容動詞＋口」のコロケーションの意味用法がいくつあるか、本節で明らかにしたい。

4.1 「口」の意味用法の考察

「口」の意味用法に関して、多くの解釈が示されている。三好（2008）は「口」の意味を「定義、形状、位置、機能、様態、包括部位、被包括部位」の7つに分けて陳述する。有菌（2005）は「口」の意味拡張を<摂食行為（人、味覚）><言語行為（話す能力、話し方、話しの内容）><モノの出入りするところ>に分けて述べている。『大辞林（第三版）』（2008）は「口」の意味と派生義を8つに分類し、『明鏡国語辞典』（2010）は「口」を名詞、造語の2部分に分けて、それをさらに11（名詞）、3（造語）に下位分類している。



表11 『明鏡国語辞典』と『大辞林（第三版）』における「口」の解釈

項目	『明鏡国語辞典』（2010）	『大辞林（第三版）』（2008）
一、名詞		
1	動物が飲食物を取り入れる部分。高等動物では頭部の下方にあって、唇・歯・舌などをそなえる。消化の一部を受けもつとともに、発声器官ともなる。「食物を口に入れる」「大きく口を開けて歌う」	○1話す事。声を出して物を言うこと ・話す時に使うものとしての口 ・話す動作。声に出すこと。 ・直接話すこと。口頭 ・うわさ。評判。風説。 ・話し方。「口が悪い」 ・呼び出し。誘い。「口がかかる」
2	●飲食物を味わう感覚。味覚。又、食べ物の好み。「口が奢る」「口が肥えている」	●2飲食すること。 ・飲食する時に使うものとしての口。「口を付ける」 ・飲食物を味わうものとしての口。味覚「口に合う」 ・生活のために必要な量の食事をとるものとしての口。食事する人数。「口を減らす」 ・飲食する動作。「酒は口にしない」
3	●生活のための食料を必要とする人数。「口を減らす」「口が減る」	
4	○ものを言うこと。話すこと 「口が達者だ」「口が軽い」「口が重い（寡黙である）」「余計な口を出すな」	
5	○評判。うわさ。 「世間の口を気にする」	
6	◇人が出入りする所 「狭い口から出入りする」「改札口」	◇3通り抜けることができる空間。 ・人の出入りする所。「戸口」「口が狭い」「非常口」 ・ものを出し入れする所。又、そこを塞ぐ。「瓶の口」 ・穴やすきま。「傷口」
7	◇容器の中身をだし入りする所。また、そこを塞ぐもの。「缶の口を開ける」「瓶の口を閉める」	
8	◇外部に開いた所。穴。すきま。 「座礁して船腹に口があく。」「傷口」	
9	物の端。また、物事の初め。最初 「切口」「序の口」「宵の口	4物事の初め。最初。「序の口」「宵の口」



項目	『明鏡国語辞典』 (2010)	『大辞林 (第三版)』 (2008)
10	就職・縁組などで、落ち着く先 「勤め口」「嫁入り口」	5入っておさまる所。「嫁の口をさがす」就職口
11	物事を分類するときに、同じ種類に属する一つ。「飲める口」「甘口」「別口」	6物事を分類する時の、その、一つ一つの類。種類の一。「飲める口」
		7馬の口に付ける縄。「馬の口をとる」
二、造語		
1	飲食物を口に入れる回数を数える語 「一口で食べる」	8 (接尾) 助数詞 口に飲み物を入れる回数を数えるのに用いる。 多くの人から金銭を集める時の、出してもらった単位を数えるのに用いる。「一口五千元で加入できる。」 刀剣などを数えるのに用いる「太刀一口」
2	数量・金額などを申し込む単位を数える語「一口千円の寄付」	
3	刀剣などを数える語「太刀二口」	

(『明鏡』と『大辞林』をもとにして作成)

表11によると『明鏡国語辞典』は『大辞林 (第三版)』より詳しく分類されているが、『明鏡国語辞典』の2～3、4～5、6～8はそれぞれほぼ『大辞林 (第三版)』の2、1、3の解釈と重なる。そして、造語の部分もほとんど同じで、二者には差異性が少ない。ただ、『大辞林 (第三版)』の7の用法が、『明鏡国語辞典』では陳述されていない。

前述した「口」の意味用法、意味拡張を参考にして、「形容詞+口」「形容動詞+口」のコロケーションにおいて、意味用法、相違点および類似点を分析する。

4.2 「形容詞+口」のコロケーションの意味用法

3.3で前述したように、「中納言」の形容詞はほとんどNLBのものと重なるので、本節では、NLBに焦点を当てて、「形容詞+口」の意味用法を考えたい。調査した結果、「形容詞+口」のコロケーションにおいて「動物が飲食物を取り入れる部分」(以下は「モノの口」)「話し方」「モノの出入り所」の意味用法が見られた。



4.2.1 「モノの口」

「モノの口」の意味用法に属する「形容詞+口」のコロケーションは「正しい口、醜い口、美しい口(2)、すごい口、丸い口、長い口、厚ぼったい口、薄い口、細い口(3)、でっかい口、でかい口(8)、小さい口」(以上、「抽象的關係」)、「恐ろしい口、可愛らしい口、可愛い口、平たい口、あどけない口」(以上、「人間活動—精神及び行為」)、「赤い口(8)、香ばしい口、臭い口、熱い口、生々しい口」(以上、「自然物及び自然現象」)で、使われている形容詞数は22に達し、「形容詞+口」は意味用法がもっとも多い。

これらの形容詞は対義語の「醜い/美しい」「でかい/小さい」「臭い/香ばしい」の3組が見られる。そして、美醜、大小、厚薄、形、様子に関する形容詞と口が合わさり、目で観察したものを表現し、嗅覚形容詞と口が合わさり、鼻で口臭を嗅ぐことを表し、温度形容詞と口が合わさり、「口」の温度を表現するのがこれらのコロケーションの特性である。また「赤い口」は共起頻度が高く、口紅を付けた口(例1)を指し、メトニミーの隣接関係で表現する。共起頻度が2つ以上あるものを以下に示す。(下線は筆者による)

- 例1 「いいかげんにしなよ、まったく」女の方は、ハンドバックからタバコを出して、赤い口にくわえた。「禁煙だよー、ここは」(石井睦美ほか文;川崎洋詩;土田義晴作・絵 『おめでとうがいっぱい』, 1999,)
- 例2 大きな口をあけて、大声を出せ。 ブスなんだから、どんなにでかい口あけたって同じことだ」(松山千春著 『足寄より』, 1979, 767)
- 例3 両側に丸い複眼があり、その間に3個の赤い単眼がある。 腹面の長い口で樹液を吸う。 雄は腹面に発音器を持ち、鳴く。(Yahoo!知恵袋, 2005)
- 例4 いつも幸運のサインを見逃す男だ。それからはらはら薄笑いすえう、そして細い口をしばめて、身を翻して水底に去った。(加島祥造詩集, 2003,)
- 例5 彼の用心深い顔を見ているうちに、リジーはしだいに失望をつのらせた。あの引き締まった美しい口を開けた手立てはないのだろうか? (ミシェル・リード, ジェイン・ポーター, スーザン・スティーヴンス, マリーン・ラブレース著;柿沼瑛子他訳 『情熱の贈り物』, 2005, 933)



4.2.2 「話し方」

「口」の典型機能の一つは<言語行為>で(有菌、2005)、つまり「声を出すもの」ということである。「形容詞+口」のコロケーションにはこの<言語行為>から「話し方」に意味拡張される。「重い口(33)、きつい口、汚い口」(以上は「抽象的關係」)、「ひどい口(4)、馴れ馴れしい口(3)、恐ろしい口(3)、悪い口(2)、親しい口(2)、白々しい口、気安い口、うまい口、小賢しい口、荒っぽい口、あどけない口、差し出がましい口」(以上は「人間活動—精神及び行為」)がこの意味用法に属する。この「話し方」の意味用法は「抽象的關係」と「人間活動—精神及び行為」に集中していて、共起頻度は前者のほうが高い。それに対して、用例が2以上ある形容詞の語数は「人間活動—精神及び行為」のほうが多い。

「重い口」(例6)は「重大な内容を含んでいて、口外するのがためられるさま」(webllio辞書)で、2つのコーパスともに多用されている。「ひどい口」(例7)はマイナスの、「馴れ馴れしい口」(例8)「親しい口」(例9)はプラスの話し方を表現する。

この意味用法には「話し方」のほかに、話す能力も含んでいて、たとえば「うまい口」は「話し方が巧みで、しゃべる能力が優れているさま」を表す(例10)。

- 例6 その時人の大きな声が、北アルピスの山々に反響した。老人が重い口を開いた。「ちょうど、一年前のこと。」(松定ちよし著『原本枕草子に操られたキツネとタヌキ』、2004、913)
- 例7 ある日、酔っ払った父が、何もしない僕をいきなり殴ったので、頭にきた僕は、父にひどい口を聞き、殴ろうとしたときでした。(笹沢佐保著『明日は我が身』、1981、914)
- 例8 学校の男子生徒と、そして男の教師たちと一切、馴れ馴れしい口を聞いてはいけない、と母は私に言い聞かせ続けた。(津島佑子著『私』、1999、913)
- 例9 ずっと広東にいて警務畑だったはずだ。四年ぶりに会ったというのに、お互い親しい口をきく雰囲気でもなかった。(帚木蓬生著『逃亡』、



2000, 913))

- 例10 父親も、うまい口はきいたけれど、自分以外のだれにも本当に関心を持たなかった。(サンドラ・ブラウン著;吉澤康子訳 『口に出せないから』, 2000, 933)

4.2.3 「モノの出入り所」

『大辞林』の「口」の解釈3(表11)には「通り抜けることができる空間。人の出入りする所、ものを出し入れする所。」というものがある。2つのコーパスで「細長い口、四角い口、広い口、狭い口(以上「抽象的關係」)、暗い口、黒い口(以上は「自然物及び自然現象」)」のコロケーションがこの意味用法に属する。

次の用例のように、「細長い口」(例11)「広い口」(例13)はともに液体の出し入れ所である一方で、「四角い口」(例12)「黒い口」(例15)「暗い口」(例16)はエレベーターかトンネルの出入り所を表す。「狭い口」(例14)は港湾の船が出入りする所を意味する。

- 例11 病人や寝たきりの人に飲料を飲ませる容器。ガラス製で細長い口が付いているもの。名称は何ですか?(Yahoo!知恵袋、2005、福祉、介護)
- 例12 はしごはそのまま、地下へ向けてぽっかりと四角い口を開けているエレベーターの穴に伸びていた。(霧舎巧著『ラグナログ洞』、2005、913)
- 例13 広い口の容器や或はガラスのボウルでもいと思いいますが、それにワインをいったん開け、すぐにボトルに戻せば、デキャンタージュした効果とほぼ同じものが得られるはずです。(田崎真也『ワイン生活』、1996、596)
- 例14 佐世保港は西に狭い口を開き、南北に長い湾を抱えた天然の良港で、その東北岸に佐世保市街が広がり、北西側一帯が海軍用地で、一番西側に海軍工場が位置を留めていた。(深田正雄『造艦テクノロジー開発物語』、2005、556)
- 例15 やがて、前方に見えてきたのは、ぽっかりと黒い口を開けたトンネルだ。(風見潤著『魔界京都幽霊事件』、2005、913)
- 例16 どちらのふちにもオーバーハングした土手様のでっばりの下に、トンネル



や木の根元の暗い口は開いていて、野ネズミはそこから出入りしているのだ。(親妻昭夫篇『ナチュラルリスト入門』, 1989, 460)

4.2.4 「形容詞+口」のコロケーションの意味用法のまとめ

4.2.1~4.2.3で「形容詞+口」のコロケーションの意味用法は「モノの口」「話し方」「モノの出入り所」の3つであることがわかった。そして、「モノの口」の意味用法がもっとも多く、「抽象的關係」「人間活動—精神及び行為」「自然物及び自然現象」の3部門で使用されている。「話し方」は「モノの口」に続き多く用いられ、「抽象的關係」と「人間活動—精神及び行為」に分布していされる。「モノの出入り所」には「人間活動—精神及び行為」の用法が見つからない。

4.3 「形容動詞+口」のコロケーションの意味用法

4.2で「形容詞+口」のコロケーションには、3つの意味用法が見られることがわかった。次に、「形容動詞+口」のコロケーションにはいくつの意味用法が用いられているのかを考察したい。

2つのコーパスにおける形容動詞の重なりとずれを調査した結果、「形容動詞+口」のコロケーションには、「話し方」「モノの口」「種類・趣味」「人・人間」の意味用法があることがわかった。

4.3.1 「話し方」

「形容動詞+口」のコロケーションにおいて、「話し方」の意味用法がもっとも多く、NLBでも「中納言」でも65%以上がこの用法で、使われている代表的なコロケーションは、「余計な口」(抽象的關係)、ぞんざいな口、乱暴な口、生意気な口、丁寧な口(人間活動—精神及び行為)などが見られる。「余計な口」はいらぬ口出し、不必要な発言、「ぞんざいな口」は言動が乱暴で礼を失っているさま、「乱暴な口」は荒々しい振る舞いをする言い方で、おおむね、抽象的な概念の用語で口と共起して表す。

例17 「分かったよ。二人のことによけいな口は挟まないことにします。それよりもさ、あんたのお母さんは結局、大丈夫なの？」(小説推理, 2004, 文学/芸術)



- 例18 市役所の会議室でおこなわれた討論会で、横柄な女性議員がぞんざいな口をきいた。(ルーブナ・メリアンヌ著;堀田一陽訳 『自由に生きる』, 2005, 334)
- 例19 何をしやがる！」 若者が外見に似合わず、乱暴な口をきいた。「とんだ失礼を…」(笹沢左保著 『帰って来た木枯し紋次郎』, 1997, 913)
- 例20 「ようし、それなら、おれはあの女の帰りを待ち受けて、あの生意気な口をきいた口に、どうぞごかんべんをと云わせてやる。(新田次郎|著 『武田信玄』1987)
- 例21 彼は紳士の風体を隠すためにぞんざいな口をきいた。彼が店に入ったとき、会話が途切れたから。(ジョイス|作;結城英雄|訳 『ダブリンの市民』2004)
- 例22 姑さんと奥さんは互いに丁寧な口を利きあってはいるが、離反が決定的になっていることは誰の目にも明らかだった。(三枝和子著 『うそりやま考』, 1995, 913)

上述のコロケーションのほかに「上等な口、対等な口、同等な口、自然/不自然な口、変な口、特別な口」(抽象的關係)、「あやふやな口、辛辣な口、不吉な口、上品な口、伝法な口、下品な口、不埒な口、急性な口、失礼な口、無礼な口、傲慢な口」(人間活動—精神及び行為)なども見られる。これらは等級、特殊、曖昧、手厳しい、不祥、品格など、抽象的概念に関わる用語である。なお、調査結果によると、「人間活動—精神及び行為」に属する形容動詞は、「口」のコロケーションにおいてほとんど「話し方」の意味用法で使用されている。

4.3.2 「モノの口」

「形容詞+口」のコロケーションにおいて、「モノの口」の意味用法がもっとも多く使用されている一方、「形容動詞+口」のコロケーションにおいてはそれが最多なのではなく、2位の多さとなっており、「巨大な口(7(NLB)8(中納言))、派手な口、大振りな口、きれいな口、浄らかな口、不格好な口⁴(以

4 点線はNLBに、直線は「中納言」に属するコロケーションである。



上、抽象的關係)、難渋な口、不気味な口(以上、人間活動—精神及び行為)、真っ赤な口(7(NLB)、3(中納言))、セクシーな口、肉感的な口(以上、自然物及び自然現象)」が見られる。形、彩り、清浄、清潔、感じなどの語彙が口を合わせり、目で「口」の様子・様態を判断する。

例23 何も音がきこえぬのがいっそうぶきみでむざんであった。ばかりと巨大な口が騎士の頭を噛みちぎり、馬の胴体を噛みちぎった。騎士たちのあいだにはたいへんな騒ぎがまきおこっていた。(栗本薫著『魔宮の攻防』, 2003, 913)

例24 すでにさっきまでの親切そうな表情はどこにもありません。目をカッと見開き、真っ赤な口を大きくあけ、つばを飛ばしながらあたりの暗がりに向かってどなりちらしています。(杉山亮作;高部晴市絵『こども講談昔屋話吉おばけ話』, 1998,)

4.3.3 「種類・趣味」

この意味用法に属する「形容動詞+口」のコロケーションは、「嫌いな口」1つだけ(NLB)である。

例25 類は類を以て集まるのたとか、ミイラ取りがミイラになったというべきか、三人はいつの間にか酔っていた。もともと嫌いな口ではない。破滅型の作家で「昼間の酒はロマンチックだ」といったのがいたが、なんとなくそんな雰囲気でもある。(甲斐克彦著『真珠湾のサムライ淵田美津雄』, 1996, 289)

4.3.4 「人・人間」

「形容動詞+口」のコロケーションには「駄目な口」(NLB)が「人・人間」の意味用法に属する。下記用例のように、「口」を部分として持つ「人・人間(全体)」を表していて、メトニミーに基づく意味の転用である。

例26 左足も使わないと、ボケるよ!、、、私54ですが、MTじゃないと、駄目



な口です。(Yahoo!知恵袋,2005,自動車)

4.3.5 「形容動詞＋口」のコロケーションの意味用法のまとめ

- (1) 調査の結果によると、4つある意味用法のうち、「話し方」がもっとも多く使用されていて、「モノの口」がそれに続く。「人・人間」と「種類・趣味」の意味用法は僅かである。
- (2) 1つのコロケーションに2つの意味用法を持っているものがある。「立派な口、変な口、不吉な口、自然な口、さわやかな口など」は同時に「モノの口」「話し方」の意味用法を合わせ持つ。
- (3) 「抽象的關係」に属する「形容動詞＋口」のコロケーションは「話し方」(余計な口、上等な口など)、「モノの口」(巨大な口、派手な口など)「人・人間」(駄目な口)の用法があるが、「話し方」が大半を占めている。
- (4) 「人間活動—精神及び行為」に属する「形容動詞＋口」のコロケーションのほとんどの意味用法が「話し方」である。たとえば、「乱暴な口、ぞんざいな口、生意気な口、丁寧な口、無礼な口、失礼な口、気軽な口」などである。
- (5) 「自然物及び自然現象」に属する「形容動詞＋口」のコロケーションは、「真っ赤な口、肉感的な口、セクシーな口」のように、「モノの口」の意味用法多い。

4.4 「形容詞/形容動詞＋口」のコロケーションの意味用法の比較

4.2と4.3において、「形容詞＋口」「形容動詞＋口」の意味用法を究明した。前者は「モノの口」「話し方」「モノの出入り所」が、後者は「話し方」「モノの口」「種類・趣味」「人・人間」が使用されていることがわかった。

「形容詞＋口」のコロケーションは「モノの口」が、「形容動詞＋口」は「話し方」が多く用いられる。ともに「モノの口」「話し方」の意味用法が見られ、「人」に関する用法は「形容動詞＋口」は「人・人間」を表し、「形容詞＋口」にはなかった。なお、「形容詞＋口」にある「モノの出入り所」という意味用法は「形容動詞＋口」にはなかった。



5 おわりに

本論は2つのコーパス（NLB、「中納言」）に見られる「形容詞＋口」「形容動詞＋口」のコロケーションを研究対象として、その意味の分類と用法を究明した。

意味分類は『分類語彙表』に照らして、2品詞の頻度数、部門別および中項目別の採録数、重なり語を比較分析した。頻度数については2品詞に差異性が認められるが、それに対して、部門別、中項目別の調査結果には類似点が見られる。また、2つのコーパスにおいて、形容詞は32の、形容動詞は29の用語が重なる。

意味用法を調査した結果、「形容詞＋口」のコロケーションには「モノの口」「話し方」「モノの出入り」の3つが、「形容動詞＋口」には「話し方」「モノの口」「種類・趣味」「人・人間」の4つが使用されている。そして、「形容詞＋口」では「モノの口」が、「形容動詞＋口」では「話し方」がもっとも多用されている。また、「形容詞＋口」も「形容動詞＋口」も「モノの口」「話し方」2つの意味用法が使用されている。辞書（表11）と先行研究には「物の端」「落ち着く先」「味覚」「造語」の用法が2品詞と「口」とのコロケーションの意味用法にあると記載されているが、実際には見つからなかった。

「口」とコロケーションで合わさる品詞には、形容詞および形容動詞に限らず、名詞（電話口、排水口、山口など）、動詞（動く口、言う口、流れ出す口など）、連体詞（その口、大きな口、小さな口など）もあり、今後の研究課題にしたい。



参考文献

- 有菌智美 2005 「身体部位（「手」・「口」）を含む慣用表現の意味分類」『日本認知言語学会論文集』第五卷
- 金田一秀穂 2006 『知っておきたい日本語コロケーション辞典』学習研究社
- 田中聡子 2002 「「口」の慣用表現—メタファーとメトニミーの一—」『言葉と文化』3巻
- 橋本和佳 2007 「名詞とそれを修飾する形容詞の関係」『日本語学』26-10 pp. 38-46
- 星野 命 1978 「身体語彙による表現」日本語の語彙と表現『日本語講座』第4巻 pp. 154-180 大修館
- 村木新次郎 2007 「コロケーションとは何か」『日本語学』10, Vol26 pp. 4-17明治書院
- 榎山洋介 2002 『認知意味論のしくみ』シリーズ・日本語のしくみを探る5研究社
- 三好準之助 2008 「語彙の対照研究の貯めの多義構造の記述モデル」『京都産業大学論集』人文科学系列 38巻 ページ1-33
- 山田 進 2007 「コロケーションの記述と名詞の意味分類」『日本語学』10, Vol26 pp. 48-57明治書院
- 李毓清 2014 「身体部位『顔』」の意味分析—日本語と中国語を中心に—『台湾日語教育学報』23 pp. 250-294
- 李毓清 2015 「コーパスから見た「顔」「面」「フェース」—ジャンルとコロケーションを中心に—」『台湾日語教育学報』24 pp. 193-223
- 李在鎬・石川慎太郎・砂川有理子 2012 『日本語教育のためのコーパス調査入門』くろしお出版
- 林 八龍 2002 『日・韓両国語の慣用的表現の対照研究』明治書院
『分類語彙表—増補改訂版』（2004）国立国語研究所 大日本図書株式会社
- 松村 明編 2006 『大辞林』第三版 三省堂
- 北原保雄編 2002 『明鏡国語辞典』大修館書店
- KOTONOHA 「現代日本語書き言葉均衡コーパス (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)
NINJAL-LWP for BCCWJ
Weblio類語辞典2018.03.20

